

～ひだまり～

3年4組 学級目標

笑門来福

～夢に向かって try&jump～

第3学年だより

第 30 号

作文特集号「修学旅行記」～4組～

今週から修学旅行の作文特集号を発行していますが、今回で3回目、折り返しになります。

本号では、3年4組の作文を紹介します。それぞれの視点、それぞれの立場から見つめた「修学旅行」という行事。今回も、素晴らしい2作品を掲載しますので、是非お読みください。

「ハプニング」

「向学と協力の集大成」その目標を掲げ、私たちは京都、奈良に向かった。私がこの目標を一番に感じられたのは、2日目の班行動の時だ。

私たちの班は2日目、最初に平等院鳳凰堂に行き、その次に伏見稻荷大社へと行った。伏見稻荷大社に着いた時には予定より10分遅れていたが、その後の行動によっては全然カバーできる範囲だった。そしてそこから電車で祇園四条へと向かう途中、事件は起きた。

「パスモ失くした！」電車の中で1人の班員が言った。私は一瞬理解ができなかった。しかし、少しした後、私は焦りを感じ始めた。終わった・・・と思った。今、10分遅れている。「これ以上遅れたらヤバイ！」そう思いながらその次の駅にすぐにたどり着いてしまった。私たちは咄嗟にその駅に降り、班員全員で考え、話し合った。その話し合いの中で班の一人が一番最初に「前の駅に戻ろう。」と言ってくれた。私はその仲間を思う姿を見て、とても心が動いた。

「協力とはこんなに素晴らしいものなんだ。」と思い、前の駅に戻ることにした。結局、前の駅にもパスモは無く、元の駅に戻ろうとした時、後ろからパスモをなくした班員の声が聞こえた。パスモはその人のポケットの中にあった。時間は30分遅れてしまったが、パスモがあって本当に良かったと思った。

私たちに起こったハプニングは私たちを成長させてくれたとともに、私にとっては協力の素晴らしい教えてくれたものでもあった。この経験を活かしてこれから生きていきたい。

裏面にも、もう一作品掲載しています。どうぞ併せてお読みください。

「経験を生かす」

私は、修学旅行を通してとても良い経験をすることができた。

そのうちの一つ目は、班と行動する場面の時だった。いつも、班で行動している時に距離が離れていることに悩んでいた。

その悩みは2日目の夜、先生からの「自分中心」になりすぎないという言葉によって原因に気づき、改めて見直すことができた。

3日目には、自分中心にならないように心掛けるようになったおかげで、以前よりも改善することができた。

二つ目は、2日目の事前インタビューで、より京都のお店では、お客様のために良くしようと取り組んでいることを知った。他にも京都をより良く堪能してほしい思いで、経営していると聞いて、すごく感謝の気持ちでいっぱいになって嬉しかった。

この2つの経験は、これから新しい環境で生かしていきたいと考える。例えば、友達とのお出かけの時、以前は自分の行きたい場所ややりたいことばかりを主張しがちだった。

しかし、この経験を通して、周りの意見に耳を傾けることの大切さを学んだ。

これからは、友達の好みや意見を尊重し、皆が楽しめるような計画をたてるなどを心がけたい。また、友達がしてくれた親切な行動や、一緒に過ごした楽しい時間を当たり前だと思わずに、感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしたい。

そして、こうした様々な関わりを通じて、自分だけでなく、周りの人たちも大切にできる人になりたい。

【担任の先生から】

修学旅行、最初に皆さんにガイダンスをした時も、前日指導の時も、「3年間の集大成となる、大成功の修学旅行」を目指したいという話をしました。皆さん、どうだったでしょうか。改めて自分自身の事前学習から準備、当日まで自分で自分に点数をつけてみてください。そのうえで、大成功をおさめられたと思える人が多くいれば何よりです。

卒業まで半年を切り、この瑞江三中で過ごす日々も長くは残っていません。卒業を迎えた自分自身に「3年間本当に頑張った」と満点をつけてあげられるように、残りの日々を全力で過ごしてほしいです。一緒に頑張りましょう。